

私たちが直面する敵

魔術の性質

これは、「私たちが直面する敵」というシリーズの2つ目です。今回は、サタンの王国の性質と構造についてで、サタンの王国には2つの階層があることがわかりました。上の層は、神のおられる天ではない、どこかしの空中の領域にあり、それは目に見える天ではありません。そして、その上の層は、神に敵対する反逆した御使いで構成されています。また、下の層は、神と、救い主なるメシヤ、イエスの義なる統治に明け渡しをしていない人間から成っています。そして、私はサタンの王国のそれらすべてを表現するキーワードは、反逆だとお話しました。御使いであれ、人間であれ、彼らはみな、神に対して反逆している者たちです。

また、私たちは、ギリシャ、ローマ、その他あらゆる国の異教の世界の神々は、サタンの王国の御使いの様々な呼び名と描写であることを見てきました。そして、異教の宗教と異教社会によって礼拝されているものはみな、サタンの使いです。人がそれらサタンの使いと交信しようとする宗教的方法の一般的な呼び名は魔術です。魔術は、墮落した人間の宗教であると言えるでしょう。魔術には、数えきれないほど様々なかたちや儀式がありますが、それは、様々なサタンの霊的存在と交信する方法という、一つの共通の特徴を持っています。多くの異なる儀式があります。ほとんどは、なんらかの性的なもの、あるいは残酷な汚れた方法です。サタンとその王国に取り入るために、代々人間が行なってきたことは、実に考えるのも恐ろしいものです。

私は、ほとんどの部分においてサタンの支配から逃れなかった民族グループの一例として、アメリカ・インディアンについて少しお話ししました。興味深いことに、ナショナル・ジオグラフィックという雑誌で、アメリカ・インディアンたちの「太陽の踊り」と呼ばれる主な儀式は、皮膚をかぎ状のもので引っ掛け、それを柱に吊るし、皮膚の大部分が引きはがれるというのを読みました。彼らはこれを神への礼拝のために行なうのです。

他にも、地球上のあらゆるところでそのような礼拝が数えきれないほど多くのかたちで存在します。お話ししたように、どのような社会に行っても、最初の性質の跡が残っており、言語によって異なる呼び名があると思いますが、呪術医という類の人がいます。そして、多くの社会において最も力のある人が呪術医なのです。

聖書にさえ、注目すべき例があります。ピリポがサマリヤに下って行き、その町でイエスを宣べ伝えました。しかし、そこにはその町全体を支配していた人がいました。彼の名はシモンと言いました。彼は魔術師で、呪術を行なっていました。そして、彼が用いる魔術のゆえに、その町全体が彼を恐れていたとあります。それはある意味においては、特別な状況ではなく、異教の原始社会においてはかなり典型的なものです。

つまり、反逆と魔術の間には直接のつながりがあるということです。私が反逆と言う時、それは神に対する反逆です。これは、第一サムエル 15:23 で非常に明確に表わされています。サウル王自身が反逆者となったあと、預言者サムエルによってサウル王に語られたことばです。サウル王は、預言者サムエルを通して神から与えられた特定の任務に従うことを拒否しました。そして、ここでサムエルは、サウルに彼の行ないについての神の評価を告げています。22節から読みましょう。

「主は主の御声に聞き従うことほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。まことに、そむくことは占いの罪、従わないことは偶像礼拝の罪だ。あなたが主のこぼを退けたので、主もあなたを王位から退けた。」

サムエルは、ここで2つを比較しています。そむくことは占いで、従わないことは偶像礼拝であると。偶像礼拝についてコメントをしますが、従わない、かたくなな人が偶像礼拝者であるという一つの方法を指摘したいと思います。かたくなな人は、自分の意見を偶像にするので、それが偶像礼拝の形です。今日教会の中における私たちの態度を考えてみることはとても興味深いです。私たちは、酔っ払いや公然と不道徳をする人々をほとんどの場合、受け入れないでしょう。しかし、教会の中にかたくなな人がどれほどいることでしょうか。

神の目には、かたくなな人は偶像礼拝者です。教会の前方で、木でできた偶像を持って、倒れ込んで礼拝するような人はいないでしょう。私たちはそれを許すことはしません。しかし、悲しいことに、多くのかたくなな人々を許容し、それを放置したままにしていることも多いのです。

別の比較に戻りましょう。そむきは、占いの罪とあります。非常に、非常に重要なことです。占い(魔術の)ルーツは、反逆で、あなたが反逆を見いだすところには、魔術が関与していると推測できます。私はこのことを解放のミニストリーで学びました。例えば、魔術の霊からの解放を必要としている人は、ほぼ例外なく、反逆からの解放も必要なのです。逆に言えば、反逆の霊に遭遇するところでは、魔術の霊があるかどうか、調べてみる方がいいでしょう。それらは密接なつながりがあります。

反逆がどのように来るかについて、簡単に説明してみたいと思います。サウル王が神のこぼの権威を拒絶したように、反逆は神の正当な権威を拒絶します。しかし、あなたは何らかの権威なしに長い人生を生きることはできません。つまり、もしあなたが正当な権威を持たないなら、それは不法な権威にとって代えられます。そして、もしあなたが不法な権威を持っているなら、不法な力に援護されてしまうことになります。そして、反逆を支える不法な力は、魔術の力です。そのため、不法な権威が行使されていると思われるところでは、魔術を取り扱う準備をした方がいいでしょう。

1960年代のアメリカでの非常に明確な例があります。それは反逆的な世代でした。人々は両親や教会、政府など、ほぼすべての権威の形式に背を向け、彼らは反逆の世代となりました。私は彼らの多くに対処し、主に出会った多くの人たちは、現在私の友となっています。しかし、一つの例外を除いて、反逆に入って行ったすべての人がオカルトに、サタンの超自然現象に、魔術に入って行きました。これは、霊的体験の論理です。遅かれ早かれ、魔術の力を受けることなく、反逆に深く関わることは、ほぼ不可能です。

サウル王の例に少し戻ってみましょう。その話を覚えていますか。サウル王は捕らえたすべての動物を聖絶するよというサムエルの命令に従いませんでした。サウル王は神にささげるためだと言って、「最上の物」を取っておきました。神は言われました。「わたしはあなたのいけにえを喜ばない。なぜなら、それは不従順から来ているからだ。」実は、サウル自身はイスラエルの王として、イスラエルから魔女を取り除きました。しかし、死の直前、彼は神から聞く

ことができなかつたため、自暴自棄になり、魔女を求めたのです。それは偶発的なことではありませんでした。それが原因と結果です。私はこのことを強調したいです。「反逆があるところには必ず、遅かれ早かれ魔術が起こる。」もう一つのポイントはこれです。「あなたが魔術やサタンの超自然現象、オカルトなどのあらゆる形式を取り扱おうとするとき、オカルトだけに対処するなら、その根っこを取り扱うことはできない。なぜなら、その根源は反逆だからである。」

では、魔術とはどのようなものかというちょっとしたイメージをお話しましょう。これは、神が大学院課程を取った時に神が与えてくださったものです。私は大学院に行く申請をしなかつたのですが、入学することになりました。妻と私は一緒に入学しました。実際にどうしてそのようになったかをお話しましょう。私たちは結婚して1年足らずの1979年に、アメリカで家族のカンファレンスに出ていました。その基本テーマは、家族関係を取り扱うというものでした。しかし、その最中に一人の若者が立ち上がりました。私は彼に会ったこともなく、誰なのかも知りませんでしたが、彼は驚くほど力強い預言をし、幸いなことにそれは録音されているので、書面でのバージョンも見ることができます。その預言で、その時まで神が魔術に対して成されたすべてのことは、予備戦争にしか過ぎないと神は言われました。しかし、その1979年から先は、神は魔術との総力戦を宣言されました。神がそう言われた理由は、「魔術は、私の終末軍に必要とする何百万人を縛っている。」です。そして、神はその時には私たちが全く理解できなかったことを告げました。「もし、あなたがこの戦いでわたし(神)に加わるなら、代々家族に引き継がれてきたのろいのもとにある人々に出会うだろう。しかし、あなたは恐れる必要はない。あなたは彼らを解放することができるのだから。」と神は言われたのです。その時、それはただ妻と私に対する言葉でした。しかし、それ以降のおよそ10年間で、私たちは何千人もの家族代々引き継がれてきたのろいのもとにある人々に出会い、神の恵みにより、神は私たちに彼らを解放する力を与えてくださいました。このことは、あの預言が神からのものであるという確信になりました。なぜなら、私たちが全く知らなかつたことについての預言を含んでおり、それは全く成就したからです。

そのようにして、私は魔術とは何かを知ったのでした。実際、それより以前に私は魔術の概要を知り、いくらか取り扱っていました。ある時点で、私はある意味、解放のミニストリーの先駆けでもありました。そして、私は当時非常に論争的となりました。ある人々は私を敬愛し、ある人々は私を嫌い、無関心な人はわずかでした。私に取り扱った多くのケースで、解放を必要とした人には魔術の霊がありました。

当時、私はかなり正統派のペンテコステで(今もペンテコステですが、それほど正統派ではありません。)、解放を必要とする人々は、牧師の娘や執事の妻や教会の奏楽者などのような人たちでした。つまり、解放を必要とすべきだった最後の人々という意味です。私はそのことについて非常に懸念を抱くようになりました。私は、「神さま、私は正しくないものに入り込まないように願います。お願いします。」と言いました。そして、「魔術とは何かを教えてください。」と聞きました。そして、これが神からの答えであつたと私は信じます。「魔術とは、人々をコントロールしようと企み、聖霊でない霊を用いることによって、あなたの望みを行なわせようとするものだ。」それから神は、当然のようにこう言いました。「誰でも霊を用いるなら、それは聖霊ではない。なぜなら、聖霊は神であつて、いかなるものも神を用いることはできないからだ。」最初の部分をもう一度言いましょう。魔術の基本は、人々をコントロールしようと企み、聖霊でない霊を用いることによって、あなたの望みを行なわせようとするものだ。」

そして、私はなぜ教会が魔術であふれているのかを理解しました。それは、他の人に何かをさせたいと感じる多くの人々がおり、そのために、どんな手段をも用いるからです。そのようにしようとする人々のほとんどは、自分が何をし

ているのか気づいていません。

さて、魔術の3つの側面を取り上げましょう。第一は、肉の行ないで、多くの人々が気づいていないものです、第二は、悪霊の力で、第三は、教会の中での魔術の働きです。

まず、肉の行ないを取り上げます。ガラテヤ5:19、20 のリストを開きましょう。様々な訳で異なる言葉が使われています。ある訳は、魔術、別の訳では、まじない、心霊術などがあります。魔術の3つの主な枝を言葉で表してみよう。それは、魔術、占い、まじないです。ここでは、魔術やまじないなどの訳がありますが、それは、同じ力で、単に呼び方が違うだけです。パウロはガラテヤ5:19、20 で言っています。

「肉の行いは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、偶像礼拝、魔術……」

肉の行ないのリストのちょうど真ん中に、偶像礼拝と魔術があります。それは、人間の墮落した性質の表現で、それが肉、墮落した人間の性質のやり方であると言えます。私たちの墮落した性質は、人々をコントロールしたいと思うのです。私たちの願望を人々がするようにと思い、かなり多くの場合、私たちはそれを得るために、不法な手段を使うのです。

この種の思惑には、3つのキーワードがあり、みなさんに注意深く聞いていただきたいのです。なぜなら、あなたがそれらの思惑に遭遇するところにはどこでも、魔術があるからです。今までそれに気づいたことがなかったかもしれません。その3つのキーワードとは、**操り**、**脅迫**、**支配**です。最終的な目的は支配で、人々をコントロールし、自分の願望を人々にさせます。それらには2つの選択肢があります。一つは、操りで、もう一つは脅迫です。どちらの道に進むかは、状況と目的にかかっています。しかし、操りを使うにしろ、脅迫を使うにしろ、最終目的はコントロールで、それは支配です。

今話しているのは、自然の範囲においてで、まだ超自然については何もお話ししていません。肉の行いとしての魔術は、実に社会のあらゆる領域で働いています。この話を聞いてから外に出てみると、あなたは異なる光で物事を見るようになるでしょう。私がみなさんに願うのは、あなたの夫や妻、祖母、義母など、誰かを指摘する前に、鏡に映し出されるあなた自身をチェックしてほしいのです。いいですか。

少し例を挙げましょう。例えば家庭生活です。人がそれを気に入るか気に入らないかに関わらず、神は家庭での特定の順序を定めています。夫は妻のかしらです。人々はそれを逆にすることもできますが、神はその順序を変えていません。そして、神の順序では、夫と妻の権威のもとに、両親の権威を前提とした子どもたちがいます。魔術がしていることは、神が与えたその順序を脇にやって、操りや脅迫などを用いるのです。

最初に子どもを取り上げてみましょう。子どもたちは、巧みな操る者です。幼くても、です、5歳の子どもの巧みな操る者となり得ます。母親がお客さんとお茶かコーヒーを飲んでいるとしましょう。クッキーもあります。その5歳の子どものは、お母さんが自分にクッキーを食べさせたくないことを知っています。しかし、お母さんが客人の前では、ダメと断るのを知っているのです。だから、客人がいる時、そこに入って行って、「ママ、クッキー食べてもいい？」と聞くの

です。母親はどうするでしょうか。おそらく、クッキーをあげるでしょう。母親は操られたのです。

何年も前、最初の妻と私はペンテコステ系の家族の隣に住んでいました。その家には両親と3歳ぐらいの娘がいました。当時人々は土曜日の夜に食料品を買うようにしていました。彼らが着替えて食料品の買い出しに行くとき、その天使のような幼い女の子は、楽しそうによちよちとついて行きました。しかし、家族が日曜日の朝、日曜学校に行こうとすると、その女の子は仰向けになって足をバタバタさせて叫び、両親を困らせました。その女の子の考えによるものではなく、食料品店に行こうとする両親には不服がなく、神のこぼを聞くことができる場所には力強く拒絶する力が彼女の中にあっただけです。

あなたは理解し始めていらっしゃるでしょう。私の友人の伝道者は言いました。「生後6週間の小さな赤ちゃんが、ベビーベッドにおり、ベッドは湿っています。おむつを替えなければいけません。それで泣きます。母親が来て、その赤ちゃんを抱きあげ、おむつを替えて抱きしめます。もちろん、赤ちゃんは抱っこされるのが大好きです。それで、次に赤ちゃんが抱っこしてほしい時には、おむつが濡れていなくても泣くのです。それは何でしょうか。操りです。このように、それは墮落した人間の性質のようなものです。

それは子供だけではありません。両親にもあり得ます。女性が用いる手段は通常、操りで、父親が操作すると考えられるのは、脅迫です。しかし、そのどちらも、人をコントロールするという同じ目的を持っています。ですから、妻は自分の思い通りにならないとき、涙を浮かべながら、食べ物を焦がし、夫の人生をみじめにさせます。最後には、夫はどうするでしょうか。降参します。あるいは夫の場合、それは様々な方法で起こり得ますが、夫は野蛮であるかもしれません。短気で強い男であるかもしれません。そして、彼は思い通りにならないと、暴力的になり、脅迫します。そして、家族全員が父親を避けます。彼らが避けたい唯一のことは、お父さんの怒りの爆発です。その父親は何をしているのでしょうか。家族を脅迫しているのです。父親の目的は何ですか。思い通りにすることです。

このように、夫と妻には違いがあることが多いです。神の命令は、彼らが向き合っただけを話し合い、祈り、神を求めることです。しかし、操りは決して本当の問題に向き合いません。操りは常に裏側に回ります。本当の問題は、決して明るみに出ません。夫と妻の違いを決して明るみに出さない夫婦が何百万人いることを知っている人が果たしているのでしょうか。夫も妻も相手の裏側に回って自分の望むものを得ようとするのです。それは操りです。

教会を取り上げましょう。教会の中での非常に多くの操りの例があります。ペンテコステ派の教会を取り上げましょう。私はペンテコステについてかなり知っていると思います。それは、私が聖公会に通ってきて、今はペンテコステで、彼らがどのように行なうかを基本的に知っているからです。聖公会に対しては少し古い情報かもしれませんが、とにかく、ペンテコステ派を取り上げます。若い牧師がいて、それは彼にとって最初の牧会です。教会員は100名ほどおり、その牧師は少し神経質で臆病です。そして、2人の非常に霊的な女性がいます。ただ霊的なだけでなく、超霊的のです。そして彼女たちはどのように教会を運営すべきかを知っています。彼女たちはそれについて牧師と祈って話し合うことはせず、そのうちの一人は異言で話し、もう一人が解釈をします。そして彼女たちは牧師にすべきことを告げます。何が起こっていますか。みなさん、もうお分かりですね。操りです。

多くの他の領域 — 仕事上では互いに操り合います。上司が秘書を操る、あるいは、秘書が自分の上司を操る

かもしれません。今あまり時間を取ることはできませんが、私が今お話ししていることは、墮落した人間の性質についてです。これは肉の行いとしての魔術で、その3つの特徴は、操り、脅迫、支配です。私が言いたいことは、あなたがそれらのものに遭遇する背後には、必ず魔術の力があるということです。

あなたの目が開かれる時、それに対処することがとても容易になります。魔術の最も一般的な策略は、あなたに罪悪感を持たせることです。「私が病気の時、なぜお見舞いに来てくれなかったのですか。私は一人ぼっちだったんですよ。」そのように言う人たちは、他の人にはしなければならないことがたくさんあったという事実を決して考慮しないのです。私は、「私に罪悪感を抱かせる人がいたら、立ち止まり、『彼らを通して何が働いているか』と自分に聞いてみる」ということを学びました。私はみことばを理解しており、聖霊は私たちに罪悪感を抱かせることはありません。聖霊は罪、義、さばきを悟らせませす。聖霊はその指を特定のもののの上に置き、「あなたはここが間違っている。あなたがしなければならないのはこのことです。悔い改めてそれを正しく行ないなさい。」と言います。しかし、罪悪感は、決して終わりのないものです。「私は十分にやったか。それとも、もっとすべだったのか。私は何か間違ったことを言ってしまったか。なぜ彼女は教会で私に話しかけてくれなくなったのか。」

魔術のもう一つの働きは、その人の意見と支持が非常に重要であるとあなたに思わせようとすることです。その人は、「あなたがこれをしていないなら、私はあなたに賛成しない。」と率直には言わず、ほのめかす言い方をします。それに直面したときにもまた、私は自分に聞いてみることを学びました。「私自身が彼によって操られようとしているのか。この人の賛成を得ることが私にとって本当にそれほど重要なのか。」そして、たいてい私の結論は、それほど問題ではないということです。

では、先に進みましょう。ヤコブ 1:14 に関連しているものです。これは、力、コントロール、そして知識の願望は、すべての人間にとって強い特徴だということです。そして、サタンは、私たちの支配欲という願望につけこみます。ヤコブはこう言っています。

「人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。」

つまり、あなたの中に、力、コントロール、評価、知識への願望があるのです。それは、私たちすべての中にあり、私たちはそれとともに生まれてきました。しかし、サタンがそれを用い始めるなら、サタンは自分のコントロールのもとに私たちを置きます。あなたはオカルトに関わっている人が今この国にどのくらいいるかを数えることはできません。私は少なくとも 75% はいると考えます。サタンが用いる動機は何でしょうか。力への願望、コントロール願望、そして知識欲です。人類が最初に陥った願望は何でしたか。あなたは、それについて考えたことがありますか。アダムが臨んだものは一言で言うと何だったでしょうか。そう、知識です。そして、アダムが違法な方法で知識に手を伸ばした時、彼はサタンの捕虜となりました。数えきれないほど多くの人々が知識欲によってオカルトの中へ引き込まれます。「私の息子は死んだらどこへ行くのだろう。」その人は最終的に何をできるようになりますか。降霊術の会に行きます。「私は幸せな結婚ができるだろうか。」その人はどうするでしょう。占い師のところへ行きます。それが動機です。それこそが、サタンの策略です。

では、靈的力としての魔術を見てみましょう。私たちは今から超自然的なことについて話します。それは人間の能

力以上のものです。すべての超自然が神さまから来るわけではないことを理解することは非常に重要です。その多くはサタンから来ます。人間に可能な超自然はただ2つの源しかありません。神かサタンです。神から来ない超自然的な力は、すべてサタンからのものです。前にお話したように、神の国は光の王国です。通常は、あなたは神の国でどこにいるかがわかっています。サタンの王国は暗闇の王国です。何があなたを操り、何があなたをコントロールし、何があなたを動かしているのかがわからないのです。

英語で説明できる3つの枝があります。あなたの言語では、少し違った用語を使わなければならないかもしれませんが。それは、黒魔術(のろいなどに用いる)、占いと白魔術(自分の益のために用いる)で、それらの全体像を少し説明してみましょう。それらはサタンの超自然の活動領域全体をカバーしていると思います。

さて、魔術は力を持った武器です。それが生み出すものは力で、魔力やのろいのようなものを通して働きます。魔術の最も強力な武器は、おそらくのろいであると思います。それは非常に古い習慣です。民数記22章を開くと、バラムは呪術師であったことがわかります。バラムは、私たちが今日なお遭遇する人で、分類するのが最も難しい種類の一人です。なぜなら、彼は神とサタンの両方からの超自然に通じていたからです。そのような人々が多くいます。そして、彼らは時に正しく、時に間違っているので、最も対処しにくい人々です。しかし、本当に対処しにくい人々は、すべての教会の中にいる、時に神に心を開き、時にサタンにも心を開く人々です。彼らを取り扱う牧師にとって、洞察と権威、勇気が必要とされます。

では、モアブの王バラクが呪術師バラムに言ったことを見てみましょう。民数記22:10、11で、バラムは実際にバラクからの提案を神に説明しています。バラムは神にこう言いました。

「モアブの王ツィポルの子バラクが、私のところに使いをよこしました。『今ここに、エジプトから出て来た民がいて、地の面をおおっている。いま来て、私のためにこの民をのろってくれ。そうしたら、たぶん私は彼らと戦って、追い出すことができよう。』」

これは、聖書の文化において標準的な習慣です。王や他の人にとって、戦いに行くときは、自然のレベルで戦うだけでなく、超自然レベルでの戦いをするのが普通でした。ですから、彼らは相手をのろうために呪術師を呼ぶのです。紀元前19世紀にエジプトの王パロによって宣告されたのろいのリストがあり、それにはのろいの対象となった66の国々があります。のろいに何の意味があるのでしょうか。戦いで打ち倒すことができる場所に彼らを連れてくるのです。それはとても興味深く、ゴリアテがダビデに立ち向かったとき、ゴリアテは自分の神々の名によってダビデを呪いました。それは単に下品さの表われだけではありません。実際にゴリアテはこのように断言していました。「私の神々はあなたの神をやっつけることができる。」ですから、ある意味、古代の戦いは、単に国々(民族)の戦いだけではないことが多く、それらの国々の神々の力を試すものとして見なされていました。たとえば、神がエジプトを取り扱い、イスラエルを導き出すとき、このように言っています。「エジプトのすべての神々にさばきを下そう。」(出12:12)。単なる人間の支配者ではなく、霊的支配者です。ですから、バラムはよいのろいをする者として雇われました。それがバラムの職業でした。

妻と私は、数年前イギリス南西部のバースを訪れました。その時ちょうど異教の宮が発掘されたところでした。そし

て、人々はその宮の祭司の主な役割の一つは、来る人々にのろいを書くことであると発見しました。彼らは自分たちでは十分なのろいを書くことはできないと思っていたので、滅ぼしたいと思う人への実に恐ろしいのろいを書くことが祭司の役割でした。笑わないでください。あなたはおかしいと思うでしょうが、ある意味それは働くのです。それに何らかの現実性がなければ、人々は何千年も特定のやり方に費やすことはないでしょう。

では、占いを見ていきましょう。運勢判断と呼ばれるものです。これは魔術の知識の要素です。それが生み出すものは、力ではなく、知識で、最初に人を罪に導いたものです。使徒の働き 16 章に非常に明確に描かれています。使徒の働き 16:16 以降です。これは、パウロとシラスがピリピで最初に福音を宣べ伝えるために着いたときに起こったことです。

「私たちが祈り場に行く途中、占いの霊につかれた若い女奴隷に出会った。」

ギリシャ語では、実際には「ニシキヘビの霊を持った」、あるいは「ニシキヘビの霊」と言っています。つまり、蛇の霊です。そして、蛇は常に異教社会において、何らかの普通ではない知識と知恵の源として見なされてきたことを覚えておいてください。アメリカのワシントンDCで、非常に有名な女性占い師がおり、彼女自身の著書で、一匹の蛇が彼女のベッドに来たときにその力を得たと言っています。

あなたにお伝えしたいことは、使徒の働き 16 章の若い女奴隷が言ったことは、まったくの真実であるということです。そして、彼女は自然な手段でそれを知ったのではなく、超自然的手段によって知りました。彼女は単なる女奴隷でした。

「この女は占いをして、主人たちに多くの利益を得させている者であった。彼女はパウロと私たちのあとについて、『この人たちは、いと高き神のしもべたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えている人たちです』と叫び続けた。」

驚きですね。それはまったくの真実です。私は時に、現在の宣教において、その女性は教会の永久雇用会員とされるのでは、とコメントしたりします。彼女は、パウロとシラスが誰であるのかを認識した最初の人でした。しかし、パウロはそれが神の霊ではなく、占いの霊、運勢判断の霊とわかっていました。最後には、パウロは振り返ってイエスの御名によってその霊に出て行けと命じました。そして、その霊は出て行き、彼女はもはや占いをすることはできなくなりました。彼女の主人たちは、もうけを失ったことに非常に怒り、パウロとシラスを長官の前に連れて行きました。その後の話はみなさんをご存知でしょう。一人の女奴隷が占いの霊から解放されたことで、その町全体は大騒ぎでした。このように、その時、パウロが通常の物理的レベルに対処しただけではなく、教会を攻撃する戦略に挫折したために介入してきた、空中のサタンの王国を取り扱ったのです。パウロが行った場所ほぼすべてに騒動があったことは注目に値します。そしてのちに、Ⅱコリントでパウロは言っています。「サタンさえ光の御使いに変装するのです。」私は、それはまったく正しいと思います。それは比喻ではありません。パウロが行ったすべての町で騒動をたくらんだサタンの使いでした。では、なぜ私たちには騒動がないのでしょうか。おそらく、私たちは十分にサタンを煩わせていないのでしょうか。私は、教会があるべき姿となる時、多くの騒動があるだろうと信じています。さらに多くのリバイバルもあるでしょう。いったいどれぐらい多くのリバイバルが騒動なしにあり得るかわかりません。ですから、決断しましょう。それには価値が

ありますか。

それから、黒魔術があります。私が思うに、常に黒魔術の方法を用いるわけではなく、薬、お守り、幸運と言われる対象物を通して働き、それらはすべてオカルトです。人々は自分に幸運をもたらす物を持ち歩きます。また、媚薬を通して働きます。それは非常に一般的です。「私はこの男性が私に恋をするようにしたい。だから、呪術師のところへ行行って媚薬をもらい、食べ物に入れたら、彼は私に恋をするはずだ。」そして、もちろん、ある程度それは働くのです。

妻と私がザンビアにいたときのことで。私たちは、不妊で子どもができない女性たち全員のために祈ってほしいと頼まれました。アフリカ人にとって、不妊は実に悲劇です。およそ 400 人の女性が私たちの前に集まりました。私たちが祈る前に、クリスチャンが彼女たちに質問をしました。「みなさんの中で不妊解消のために呪術師から薬をもらった人はどれぐらいいますか。」すると、2 人を除く全員が手を上げました。このように、私たちが取り扱っていることは、非常に珍しくまれなものではないのです。

黒魔術はまた、音楽を通して働きます。ルンファアが天の音楽の担当であったことを思い出すでしょう。彼は、音楽についてよく知っており、音楽に力があることを知っていました。そして、現代音楽の多くである、『アシッド・ロック』と呼ばれる進化系ロックなどは、単純に魔術です。その音楽を 1 時間聴いている若者を観察すると、その目はうつろで、彼らは現実との接触を失ってしまっています。

そしてもう一つの黒魔術の主な枝は、ドラッグです。ギリシャ語で黒魔術の単語はドラッグ(薬物)から直接来ており、アシッド・ロックにつきもののドラッグ・カルチャー全体は、私たちの文化の中に働く魔術の明らかな例です。そしてそのほとんどすべての人は、イエスのもて来るときにその力からの解放が必要とされるのです。事実、悪霊をどのように取り扱うかを知らないなら、社会の中のその特定の階層の人々に働くことが役に立つかどうか、私は疑問に思います。

黙示録 9:21 節の一つの魔術の様子を少し見てみましょう。これは、私が思うに、神のさばきが不法の上に現れて臨むときの人間の歴史の将来の場面を描いているのではないのでしょうか。20 節と 21 節です。

「これらの災害によって殺されずに残った人々は、その手のわざを悔い改めないで、悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた、見ることも聞くことも歩くこともできない偶像を拝み続け、その殺人や、魔術や、不品行や、盗みを悔い改めなかった。」

魔術という言葉は、ある訳では、ドラッグ(薬物)とも訳されています。ドラッグと魔術が一緒になると、不品行や暴力に及びます。近年の文明的な生活の中における暴力の急増は、魔術の作用が大きく関わっています。ですから、あなたがそれについて祈る時、ただその枝の部分だけを祈るのではなく、その根元を取り扱わなければなりません。

さて、私たちはこの三番目の領域である、教会内での魔術についてお話ししましょう。これは、あるクリスチャンにとっては、いったい何が起きているのかわからない領域です。ガラテヤ 3:1-5 を開きましょう。

「ああ愚かなガラテヤ人。…だれがあなたがたを迷わせたのですか。」

その事実を考えたことがありますか。彼らはカリスマ的な、ペンテコステ派クリスチャンでした。彼らは主が誰であるかを知っており、救われており、聖霊を受け、奇蹟をあかしていた人たちでしたが、彼らは迷わされたのです。そして、迷わせるとは、標準ギリシャ語の『魔術をかける』という言葉です。非常に興味深いことに、その単語は今も現代ギリシャ語で使われています。*vaskania*という語は、現代ギリシャ語で災いの目という意味です。私がそれを知るようになったのは、数年前にギリシャ正教の祭司が主イエスに出会い、私のところに来て、「私のために祈ってください。私は、この *vaskania* から解放されたいのです。」と言ったからです。それは、まさにここで使われているのと同じ単語です。

「ああ愚かなガラテヤ人。十字架につけられたイエス・キリストが、あなたがたの目の前に、あんなにはっきり示されたのに、だれがあなたがたを迷わせたのですか。」

パウロはどのようにして、魔術が働いているとわかったのでしょうか。そのしるしは何だったでしょう。非常に重要です。魔術が、十字架に架けられたイエス・キリスを受け入れた人々の啓示をぼやけさせたのです。それが十字架のイエス・キリストの現実を隠すために教会の中にある魔術の最大の目的です。

続きを読んで、何が起こったかを見てみましょう。

「ただこれだけをあなたがたから聞いておきたい。あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも信仰をもって聞いたからですか。あなたがたはどこまで道理がわからないのですか。御霊で始まったあなたがたが、いま肉によって完成されるというのですか。あなたがたがあれほどのことを経験したのは、むだだったのでしょうか。万が一にもそんなことはないでしょうが。とすれば、あなたがたに御霊を与え、あなたがたの間で奇蹟を行われた方は、あなたがたが律法を行ったから、そうなされたのですか。それともあなたがたが信仰をもって聞いたからですか。」

根本的な問題は、**十字架のイエスの現実**が、入り込んできた悪霊の力によってくらまされたことでした。そして、それにより起こった2つの問題は、肉の欲と律法主義でした。彼らは、神のみこころを行なうこと、神を喜ばせること、また神の義に達する方法としてあらゆる規則を守るという、肉的な努力に戻ってしまいました。そして彼らはキリストの死の目的を見失ってしまったのです。最終的な結果が10節に書かれています。

「というのは、律法の行いによる人々はすべて、のろいのもとにあるからです。こう書いてあります。『律法の書に書いてある、すべてのことを堅く守って実行しなければ、だれでもみな、のろわれる。』」

つまり、パウロは、「もしあなたが律法を守ることによって義を達成することに戻ってしまうなら、覚えておきなさい。あなたは常に律法全体を守らなければならず、そうしなければあなたはのろいのもとにある。なぜなら、イスラエルがカナンの地に入った時、彼らが最初にしなければならなかったことの一つは、常に律法全体を守らないなら、彼らの上に臨むのろいを宣言することだったからである。」と言っているのです。このように、時々だけ、律法の一部を守るとはあなたにとって良いことは何一つありません。あなたが律法の守ることによって義とされようとするなら、あなたは常に律法全体を守らなければなりません。そして、私たちは誰ひとり、神の目から見て律法の行いによって義とされる

ことはできません。それはサタンの欺きです。それは、何よりも人間の高ぶりに訴える欺きです。パウロが言っているように、アブラハムが行ないによって義とされたのであったなら、彼は何らかの自慢するものを持っていたでしょう。しかし、神の御前にそうではなく、「アブラハムは神を信じた。それが彼の義とみなされた。」とされています。そのように、基本的に私たちはみな何らかの自慢をしたいのです。何らかの方法で他の人よりも少しだけ義とされたいのです。そして、もし私たちが守っている規則を設定するなら、何らかの方法で義とされる自分たちを確認できるのです。

何年も前、私はイギリス軍にいたときに主に出会い、主のあかし人となりました。なぜなら、私は仲間の兵士たちとあまりにも違う生き方をしていたので、彼らの多くが私のところに来て私に話しかけてきたとき、私は彼らにこう言いました。「私は宗教的になったのではなく、救われたのです。」それから、私は救いについて彼らに話しました。ほとんどすべての人の最初の反応は、守るべき規則のリストが欲しいというものでした。そして、ひとり一人が自分個人の人生にあつらえたリストを持っていました。つまり、人が、神の求める義に出会ったときの最初の反応は、「私は律法を守ります。」というものです。私は時に「キリスト教は規則(律法)がない」と言うクリスチャンに驚かされます。いったんそのように律法を弱めてしまったら、私たちは十字架のビジョンを失ってしまいます。そして私たちは、神の力を失ってしまうのです。

さて、なぜサタンは十字架を覆い隠したいのでしょうか。このことばを挿入させてください。「私は個人的に、世界中のほとんどを旅しており、様々な背景を持ったクリスチャンに奉仕している者として、教会には2つの主な必要があると思います。第一に、**イエスの十字架の中心性**を正しい位置に回復することで、なぜなら他のあらゆる宗教とキリスト教とのまったく違っていることのひとつだからです。他のどの宗教にもそのようなものはありません。私たちが十字架とその独自性を置き換える時、律法によって生きることに戻ってしまうのです。人間の心理です。心理学は何が間違っているかを教えることはできますが、正しいことを行なわせることはできません。正しいことを行なわせる力は一つの源、ただ十字架からだけ来るのです。

もう一つ、それに関する問題は、イエスを教会のかしらとしての地位に戻す必要があるということで、なぜなら、神はイエスを教会のすべての上に立つかしらとされたからです。そして、問題は、基本的に教会はイエスのかしらとしての地位をしっかりと認めていないということです。かしらが物事を決断し、からだは従います。どれほどの教会が実際に聖霊を通してイエスによって決断をしているのでしょうか。どれほどの教会が、実際に決断のためにイエスを招いているのでしょうか。イエスが言われることを放っておいています。なぜでしょうか。何が働いているのでしょうか。そう、魔術です。

このように、私は一つの診断をしました。もしあなたがこの分析を用いるなら、あなたが密接に関連している物事の多くにおいて、あなたの態度と展望はまったく変わるでしょう。なぜなら、サタンは、暗闇で働くことを好むからです。サタンは何を行なっているか、どのようにそれを行なっているかを知っている人々は好きではありません。今、この特定のメッセージを語っていることに対して、私は相当な個人的攻撃に直面しており、その理由を私は知っています。なぜなら、このメッセージは、サタンが光にさらされたくないことを、光の中へ引き出しているからです。

肉の行ないとしての自然の中での魔術の性質であるか、超自然での魔術の性質かのどちらかです。そして最後のサタンの望みは、クリスチャンに魔術は教会の中で働くという理解させることなのです。

なぜ、サタンは十字架を覆い隠したいのでしょうか。3つの理由を挙げましょう。それは、神が贖った人々のための神のすべての備えの唯一の基礎です。他の基礎はありません。ヘブル 10:14 は言っています。

「キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです。」

十字架でのイエスの犠牲により、歴史のあらゆる時代において、すべての人類に必要とされたすべてのことを神は成し遂げられました。それはすべて、十字架によってなされたのです。

私たちが十字架を用いることは進歩的なものです。私たちはきよめられています。イエスが成されたことは完全で、完了し、完成です。しかし、私たちの十字架の適用は進歩するものです。自分を含めて、これを聞いておられる方が、一人として十字架によって可能となったものすべてを、用いてきたとは思いません。しかし、もし私たちがきよめのプロセスを通り、聖とされ、神と一致し、神の考えで考え、神の道を歩むなら、私たちはさらに与えられているものを用いるでしょう。しかし、もし魔術が入り込んだなら、魔術は十字架を覆い隠し、私たちが王の子どもとして生きるべきであるにもかかわらず、私たちは物乞いや貧民のように生き始めるのです。なぜなら、神が備えたすべての益は、ただ十字架の基礎からだけ来るからです。

サタンは実に抜け目がありません。サタンは何を攻撃すべきかを正確に知っています。もし十字架を覆い隠すことができるなら、サタンは教会を思うままにします。

2つ目の理由は、十字架はサタンの完全な敗北の手段でした。すべての聖句を見ていくことはできませんが、十字架を通して、イエスは完全に、永遠に、撤回できないサタンへの敗北を成し遂げました。サタンはそれを変えることはできません。しかし、サタンがしようとしたことは、私たちがもはや勝利を歩まないように、私たちからその事実を隠したのです。なぜなら、私たちのために成されたその勝利を私たちが理解していないからです。

十字架の3つ目の特徴は、真のクリスチャンの歩みのための唯一の力の源であるということです。あなたは、好きなだけ山上の説教を引用でき、あらゆる種類の精神科医は、それこそ人々が生きるべき道だと言いますが、私たちがその道を歩むことを可能にするのは、十字架のイエスの犠牲を通してのみなのです。なぜなら、イエスの犠牲は、古い人である肉の性質を取り扱ったからです。パウロは言っています。「私たちの古い人はイエスとともに十字架につけられた。」と言っています。彼はその少し後ガラテヤ書で、「キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を様々な情欲や欲望とともに、十字架につけた。」と言っています。あなたの肉の性質に十字架を適用することを学ばない限り、肉の性質があなたを支配します。あなたがそれを治めることはできません。パウロはローマ 6 章で言っています。「私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためである。」それが十字架の備えです。

以前お話ししましたが、私は聖公会の背景から来ており、それを通して多くの素晴らしいことが私に起こったことを神に感謝します。しかし、ずいぶん昔、毎週日曜日の朝 11 時 15 分に一般告白というのが習慣としてあり、その中で言っていたことの一つに、「哀れな罪人である私たちをお赦してください。」があり、これを聞いておられる人の中でもそ

れに感謝する人もいます。そして私は自分の周りの人々を見回して思ったものでした。「確かにこれは素晴らしい表現だ。」しかし、私自身は、「ただ自分を哀れで罪人にするなら、宗教の何が良いのだろう。」と考えていました。そして私の最終結論は、「私は宗教なしでも、そして哀れにならなくても罪人となれる。」でした。それが、私が行っていたことです。しかし、自分自身で言っていたもう一つのことは、私は日曜日に自分の罪を告白しているが、今週出かけたなら、同じ罪を犯すことを知っていました。犯し続ける罪の告白によって神を喜ばせているだろうか。私は不誠実なのではありませんでした。ただ無知なだけでした。私の中の古い反抗を死につけさせる備えがあることを知らなかったのです。しかし、それは十字架を通してなされたのです。

では、私が書いたものを読み上げましょう。「十字架から来る力の代わりに、魔術は肉的努力と律法主義手段に用います。あなたは 10 個の規則を作り、人々はそれらを守りません。そこであなたは言います。『では、20 の規則を定めよう。』しかし、守る人はまだ少ないので、あなたは 40 の規則を作りました。」しかし、規則を作ることは、人を義人にしません。知っていましたか。ユダヤ教には、今日 613 の戒律があります。私の孫の一人は、超宗教的正統派ユダヤ教のグループの会員で、その人々は、「私たちはその中の 32 の戒律を守る。」と言い、他の人たち以上に守ります。問題は、私たちはあらゆる規則を持つことはできるが、それらを守ることができないということです。律法に戻ることは、私たちの生活の中の魔術の影響です。私は個人的に、教会の主な教派のほぼすべてでそれが起こっていると思います。私への反論もあるでしょう。教会内で生み出されたすべての神の主な働きは重要で、活発で、力強いものでしたが、1 世代か 2 世代で十字架のビジョンを失い、肉の努力と規則、組織などのようなものに入って行ってしまったと、私は思います。

エレミヤ 17:5 を引用して締めくくりましょう。

「主はこう仰せられる。『人間に信頼し、肉を自分の腕とし、心が主から離れる者はのろわれよ。』」

それが、魔術が教会の上にもたらすのろいです。私たちはもはや超自然的な恵みと神の力に信頼せず、自分の努力でできる最善のことに信頼してしまうのです。